

## 地域・在宅編 ACP ロールプレイ演習 進め方

このロールプレイ演習では、地域包括ケアの現場で ACP を実施する担当者としてどのように意思決定支援を進めていくかということを考え、ACP 実践を体験するために活用していただくものです。さらに、在宅医療・介護従事者から ACP をすすめられる本人・家族役と、その ACP によるディスカッションとコミュニケーションを客観的にみる観察者役をそれぞれ体験できるように4名1グループでワークができるように事例を準備しています。ACP を実施する地域包括ケアを担う在宅医療・介護従事者役、ACP を受ける本人と家族役、それらのやりとりを客観的にみる観察者役に分かれて ACP の実際を体験することで、ACP ディスカッションの実際を体感し、実際に ACP を実施する側とそれを受ける側の気持ちを体感することを目的としています。

事前に役割を決定し、担当する役割の事例をそれぞれに読み込み、その役になりきってそれぞれ ACP を意識したコミュニケーション・ディスカッションを体験してみてください。

ロールプレイの後、気づいたことなどについてお互いに意見交換をすることにより、ACP 実践者としての思いや ACP を受ける側の思いを知ることができます。双方が感じることを理解することによって ACP 実践力を高めることを目的としています。

### 事例は

Cさん 70歳 男性 妻と二人暮らし 特発性肺線維症 要介護3

5年前に特発性肺線維症を発症し、在宅酸素療法をしながら在宅生活を送ってきた。ここ最近は急性増悪による入退院を繰り返すようになってきている。従業員3名の中規模スーパーを個人経営しており経営面での不安も大きく、自分の疾患については多くを語らない。今後の急変時の対応や最期を迎える場面についての意思決定支援を進める時期であると担当者は考えている。

役割は、以下の4名です。

- ① Cさんの担当在宅医療・介護従事者
- ② Cさん本人 70歳
- ③ Cさんの妻 68歳
- ④ 観察者役

## ACP ロールプレイ

**あなたは、Cさん担当の在宅医療・介護従事者です。**

**情報を読んで役になりきってください。**

### 事例 Cさん 70歳 男性 妻と二人暮らし 特発性肺線維症 要介護3

従業員3名の中規模スーパーを個人経営している。65歳までは現場で仕事をこなしていたが、インフルエンザ罹患後急に労作時の呼吸困難が増強し、精密検査の結果、5年前に特発性肺線維症と診断を受けた。2年前に在宅酸素療法を導入して訪問診療、訪問看護、訪問介護等の介護サービスを利用しながら在宅生活を続けてきたが、特に気温が下がると感冒などの上気道感染から呼吸状態が悪化して緊急入院することも増えてきた。今回も感冒罹患による呼吸状態の悪化による救急入院により治療を受け退院となった。入院時は酸素4L下でSpO<sub>2</sub>が80%程度と急激に低下が認められていたが、現在は90%代へ安定してきたので退院して在宅生活へ戻った。

5年前にはじめて診断を受けた病院で「5年生存率が30～50%程度」という告知を受けているが、どの程度現状を受け止めているのかわからない。主介護者である妻もリウマチで思うように動けない時が多くなってきている。

従業員3名のことも考えるとスーパーの経営も心配で、経理面だけでも仕事を続けたいとの希望で仕事量を減らしつつ在宅生活を続けてきたが、徐々にトイレへ行くのもしんどくなってきている。酸素量を増やしても呼吸困難が改善しないことに不安といらだちを覚えている様子。

**あなたは、Cさん担当の在宅医療・介護従事者です。以下の情報を読み込んで自分の役になり切ってください。**

本日は、Cさんの急性増悪による緊急入院から退院後の初回訪問の日である。電話では、ひとまず退院後の生活も落ち着きつつある様子。本人自身も呼吸状態が悪化して症状が進行していることを自覚している様子だが、自分の身体のことについては多くを語らない。Cさんの担当者となって4年が経過しているが、ワンマン社長であったCさんは自分自身の意向にそぐわないことに関しては強く反発し、かなり傲慢なタイプなので、在宅医療・介護従事者としても聞きたいことや伝えたいことについてうまくコミュニケーションを取れてきたとは言い難い。前回の緊急入院前にはトイレ移動も困難な程度まで呼吸状態が悪化しており、入退院の間隔も短くなってきていることや、退院時のカンファレンスでは、病院の主治医からも今回退院してもすぐに急変する可能性もあると伝えられていることから、今後の急変時の対応について本人・家族交えてじっくり話をしておく必要があると考えている。本日は、本人の病状認識と今後の治療や暮らしの方向性、急変時の対応について確認と意思決定支援を行うつもりである。

在宅医療・介護従事者役用 個人ワーク

あなたはこれから、在宅医療・介護の担当者としてCさんと妻を交えてCさんの今後について、「もしもの時」の話し合いをはじめのつもりです。

どのように、どこまでの話をするか、まずご自身で考えてみてください。

	方向性・帰着点・声かけの内容	確認したいこと等
①担当者として、Cさんの今後の状態を <u>どのように予測</u> していますか？		
②今日の話し合いでは本人と妻に <u>何を伝えなければならぬ</u> と思いますか？		
③今日の話し合いで、どこまでのことを確認しておこうと思いますか？		
④どのように話を切り出しますか？		
⑤ロールプレイをしてみて、考えたこと、気づいたことはどんなことでしょうか？ *聞きたいことが聞けたか？ 言いたいことが言えたか？		

**あなたは、Cさん本人です。情報を読んで役になりきってください。**

### 事例 Cさん 70歳 男性 妻と二人暮らし 特発性肺線維症 要介護3

従業員3名の中規模スーパーを個人経営している。65歳までは現場で仕事をこなしていたが、インフルエンザ罹患後急に労作時の呼吸困難が増強し、精密検査の結果、5年前に特発性肺線維症と診断を受けた。2年前に在宅酸素療法を導入して訪問診療、訪問看護、訪問介護等の介護サービスを利用しながら在宅生活を続けてきたが、特に気温が下がると感冒などの上気道感染から呼吸状態が悪化して緊急入院することも増えてきた。今回も感冒罹患による呼吸状態の悪化による救急入院により治療を受け退院となった。入院時は酸素4L下でSpO<sub>2</sub>が80%程度と急激に低下が認められていたが、現在は90代へ安定してきたので退院して在宅生活へ戻った。

5年前にはじめて診断を受けた病院で「5年生存率が30～50%程度」という告知を受けているが、どの程度現状を受け止めているのかわからない。主介護者である妻もリウマチで思うように動けない時が多くなってきている。

従業員3名のことも考えるとスーパーの経営も心配で、経理面だけでも仕事を続けたいとの希望で仕事量を減らしつつ在宅生活を続けてきたが、徐々にトイレへ行くのもしんどくなってきている。酸素量を増やしても呼吸困難が改善しないことに不安といらだちを覚えている。

**あなたは、Cさん本人です。以下の情報を読み込んで自分の役になり切ってください。**

今日は退院後はじめての医療・介護担当者の訪問日である。今後について相談したいことがあると電話があり何事かと気が重い。自分でも呼吸状態が悪化していることは自覚しているが、これまで入院治療によって何とか回復できてきたので、あまり先のことは考えないようにしてきた。5年前に主治医から5年生存率は30～50%と言われたことはしばらく忘れていたが、ここ最近の体調悪化を考えると、自分の命もそう長くないのではないかと感じはじめています。

長年勤めてくれている従業員のことを考えると、スーパー経営のことも心配である。経理面はまだ自分が担っているが、妻がスーパーの仕事をいろいろ手伝ってくれていることが何よりも助かっている。自分の日々の生活を支えてくれている妻も、10年前からリウマチを患い、体調の悪い時にはベッドから起き上がるのもつらそうな時があるので心配である。長女は、海外転勤となった際に知り合ったアメリカ人と結婚してニューヨークで暮らしている。国際結婚に大反対をしてほぼ勘当状態にしたため、妻とは連絡を取り合っているが自分とはほとんど交流がない。孫が生まれた時に実家へ連れてきたが、国際結婚へまだ反対の気持ちが強かったため、すぐに追い返してしまったことを今となっては悔やんでいる。

あなたは、Cさん本人です。退院後少し在宅生活は落ち着いてきましたが、体調もすぐれず仕事のことも気になって、気分が重い日々です。今日は担当医療・介護従事者が相談しておきたいことがあるため訪問すると連絡がありました。何の相談なのか心配です。

話し合いの前に、以下の項目について想像しながら考えてみてください。

	自分の考え・方向性	確認したいこと等
①今日の話し合いでは何を言われると思いますか？		
②自分のことについて、担当者に何を聞いておきたいと思えますか？		
③仕事のことも含め、家族のことについてどこまで話をしようと思えますか？		
④今後について、担当者に依頼したいことは何ですか？		
⑤ロールプレイをしてみて、考えたこと、気づいたことはありましたか？ *聞きたいことが聞けたか？ 言いたいことが言えたか？		

**あなたは、Cさんの妻「M美さん」です。情報を読んで役になりきってください。**

### 事例 Cさん 70歳 男性 妻と二人暮らし 特発性肺線維症 要介護3

従業員3名の中規模スーパーを個人経営している。65歳までは現場で仕事をこなしていたが、インフルエンザ罹患後急に労作時の呼吸困難が増強し、精密検査の結果、5年前に特発性肺線維症と診断を受けた。2年前に在宅酸素療法を導入して訪問診療、訪問看護、訪問介護等の介護サービスを利用しながら在宅生活を続けてきたが、特に気温が下がると感冒などの上気道感染から呼吸状態が悪化して緊急入院することも増えてきた。今回も感冒罹患による呼吸状態の悪化による救急入院により治療を受け退院となった。入院時は酸素4L下でSpO<sub>2</sub>が80%程度と急激に低下が認められていたが、現在は90代へ安定してきたので退院して在宅生活へ戻った。

5年前にはじめて診断を受けた病院で「5年生存率が30～50%程度」という告知を受けているが、どの程度現状を受け止めているのかわからない。主介護者である妻もリウマチで思うように動けない時が多くなってきている。

従業員3名のことも考えるとスーパーの経営も心配で、経理面だけでも仕事を続けたいとの希望で仕事量を減らしつつ在宅生活を続けてきたが、徐々にトイレへ行くのもしんどくなってきている。酸素量を増やしても呼吸困難が改善しないことに不安といらだちを覚えている様子。

**あなたは、Cさんの妻「M美さん」(68歳)です。以下の情報を読み込んで自分の役になり切ってください。**

夫のCさんは、亭主関白・ワンマン経営者でこれまで他人の意見を聴くような人ではなかった。夫は病院嫌いで入院もギリギリまでしたくないと言っていたが、最近は呼吸状態が悪化して入退院を繰り返すようになった。前回の入院時には「救急車を呼べ」と夫から言い出し、このまま退院できないのではないかと思った。今回は万全に体調が良いとは言えない状態での退院で、今後の体調悪化時に自分はどうのように対応すればよいか不安を感じている。

スーパーの経営もまだ夫が経理を頑張っているが、トイレへ行くのもしんどい状態になってきたので、従業員にすべて任せて自分の健康を大切に暮らしてほしいと思っているものの、夫にそれを言ってしまうと生きがいがなくなって弱ってしまうのではないかと言いつつ出せずにいる。ニューヨークに住む長女には夫の身体のことや経営のことなど電話で相談しているが、実際に夫の身体がここまで弱っていることも理解できていないし、夫と長女の折り合いは良くないのであまり親身になって考えてもらえない。

自分のリウマチも季節によっては症状が悪化して、ベッドから起き上がるのもつらいことがある、このまま病気持ちの夫婦二人で自宅での生活を続けていけるのか不安である。

今日は在宅医療・介護担当者が今後について相談をしたいと訪問してくれることになっている。この機会にいろいろと相談することができればと思うが夫の対応が気になる。

あなたは、Cさんの妻「M美さん」です。役になり切ったうえで、話し合いの前に、以下の項目について想像しながら考えてみてください。

	自分の考え・方向性	確認したいこと等
①今日の話し合いでは何を言われると思いますか？		
②妻としては、夫のことについて、担当者に何を聞き、話しておきたいと思えますか？		
③これまでの家族のことについて、どこまで話をしようと思えますか？		
④妻として、担当者をお願いしたいことは何ですか？		
⑤ロールプレイをしてみて、考えたこと、気づいたことはありましたか？ *聞きたいことが聞けたか？ 言いたいことが言えたか？		

あなたは、観察者役です。以下の点について考えながら3人のやりとりを聞いてください。

### 事例 Cさん 70歳 男性 妻と二人暮らし 特発性肺線維症 要介護3

従業員3名の中規模スーパーを個人経営している。65歳までは現場で仕事をこなしていたが、インフルエンザ罹患後急に労作時の呼吸困難が増強し、精密検査の結果、5年前に特発性肺線維症と診断を受けた。2年前に在宅酸素療法を導入して訪問診療、訪問看護、訪問介護等の介護サービスを利用しながら在宅生活を続けてきたが、特に気温が下がると感冒などの上気道感染から呼吸状態が悪化して緊急入院することも増えてきた。今回も感冒罹患による呼吸状態の悪化による救急入院により治療を受け退院となった。入院時は酸素4L下でSpO<sub>2</sub>が80%程度と急激に低下が認められていたが、現在は90%代へ安定してきたので退院して在宅生活へ戻った。

5年前にはじめて診断を受けた病院で「5年生存率が30~50%程度」という告知を受けているが、どの程度現状を受け止めているのかわからない。主介護者である妻もリウマチで思うように動けない時が多くなってきている。従業員3名のことを考えるとスーパーの経営も心配で、経理面だけでも仕事を続けたいとの希望で仕事量を減らしつつ在宅生活を続けてきたが、徐々にトイレへ行くのもしんどくなってきている。酸素量を増やしても呼吸困難が改善しないことに不安といらだちを覚えている様子。

	感じたこと・気づいたこと・アドバイス等
①担当者の話の切り出し方はどうでしたか？ 話し合いの方向性はみえましたか？	
②Cさん本人や妻の気持ちはどのように揺れ動いているようにみえましたか？	
③自分が担当者だったとしたら、どのような点について話をしたり、確認していきますか？	
④観察者としての全体の感想	